遺跡がその居住域であるとする見解が今日一般的である。

今回の調査地における集落は、時期的にみると、6世紀末頃から10世紀にいたる期間の掘立柱建物などが展開するが、百済寺が創建された8世紀後半から9世紀初頭にかけての数十年間が盛行期であった。

位置的には、百済寺を基準に想定されている方形区画復元案ではその北西端から外方にあたる。百済寺の主軸方位であるＮ４°30′Ｗに近い掘立柱建物が多いが、やや遠方にあたるためか主軸方位の異なる掘立柱建物や方位の異なる道路側溝と思しき溝も検出された。既往の調査成果でも台地西端部では主軸方位の異なるものもあり、自然地形の制約や百済寺との距離に反比例する形で、計画的な地割りは徹底されていなかったと考えられる。

第３節　禁野火薬庫の変遷

禁野火薬庫（正式には時期によって出張所、弾薬庫、倉庫、兵器補給廠分廠）は、明治30（1897）年から昭和20（1945）年まで存続した。交野台地の北西端部にあたる平成15・16年度調査地は、主に明治29（1896）年に用地買収された部分であり、明治30（1897）年の禁野火薬庫（当時は禁野出張所）開設当初からの遺構が検出された。それに対し、その北から東に隣接する今回の禁野本町遺跡10‐１の調査地は、明治39（1906）年から明治43（1910）年にかけて用地が買収され、それ以降に施設の設置が行われた範囲を中心とする。

発掘調査により、多数の砲弾、薬莢、薬包などの軍事関連遺物や、瓦、煉瓦、枕木、レール、犬釘といった建築・鉄道関連遺物とともに、火工場、倉庫、石組溝、土塁、軽便軌道、厠、貯水池といった禁野火薬庫の諸施設を検出した。

一方、図面など禁野火薬庫の記録も残されている。表11に掲げるように、開設から大正12（1923年）までについては現存する図面類は少ないが、大正13（1924）年から昭和14（1939）年の爆発にいたるまでは『大阪陸軍兵器補給廠歴史』所収の「大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図」や「大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図」などによりほぼ毎年の状況が判明する。爆発後も、その直後、太平洋戦争中の昭和17（1942）年、昭和20（1945）年の終戦後の状況が記録されている。図面などの記録によると、施設の建築、施設の造作や用途の変更、あるいは名称の変化などが著しい。

検出できた遺構と図面などの記録を対比しながら、禁野火薬庫の構造物の実年代の特定や配置の変遷を簡潔にたどる。平成15・16年度と今回の調査で検出した禁野火薬庫関係の遺構の全容を付図２と図188に掲げ、変遷を表12と図189～197に示した。各図に示した建物などの規模・形状には一部想定復元を含む。また、その時点よりも古い施設を薄く表示した。

なお、各年の配置図では範囲外になるので付図２にのみ掲げるが、平成15・16年度調査地の南西端でわずかに検出された建物がある。これは、明治30年の火薬庫創設以来、**手入場**とされていた部分に、昭和11（1936）年に**雑物庫**として建てられ、昭和12年から昭和14年３月１日の爆発まで**第１号雑器庫**と呼称されていたものである。

「大阪兵器支廠禁野弾薬庫一般配置図」［明治42（1909）年］との対比（図189）

土塁や**軽便軌道**の設置は進んでいる。しかし、火工場や火薬庫といった建物はあまり設けられていな

表 11　禁野火薬庫の配置図等

西暦	和暦	月	日	図　　面	所収文書・備考
1897	明治 30				「開設当時ノ主ナル建造物調」
1898	明治 31				
1899	明治 32				
1900	明治 33				
1901	明治 34				
1902	明治 35				
1903	明治 36				
1904	明治 37				
1905	明治 38				
1906	明治 39				
1907	明治 40				
1908	明治 41			陸軍測量部 1 /20000 正式図（高槻）	→『シンポ 2011』82 頁に掲載
1909	明治 42			**大阪兵器支廠禁野弾薬庫一般配置図**	「禁野弾薬庫変災概況」『明治 42 年 陸軍兵器本廠歴史』 →『セ 140 集』６頁（図５）に掲載
					「被害状況調書（新築及模様替諸建築物）」
					菊池侃二「禁野火薬庫爆発事件調査報告書」
1910	明治 43				
1911	明治 44				
1912	明治 45				
1913	大正 2			**大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図**	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』→『禁野火薬庫資料集』 →『セ 140 集』７頁（図６）に掲載
1914	大正 3				
1915	大正 4				
1916	大正 5				「禁野弾薬庫道路拡張ノ件」
1917	大正 6				
1918	大正 7				
1919	大正 8				
1920	大正 9				
1921	大正 10				
1922	大正 11				
1923	大正 12				
1924	大正 13	11	1	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』
1925	大正 14	12	30	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』
					『禁野火薬庫ノ沿革』
1926	大正 15				
1927	昭和 2				
1928	昭和 3?			大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』
1929	昭和 4	9	1	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』（大正？年の図を日付改訂）
1930	昭和 5	12	31	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』
1931	昭和 6	12	31	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』
1932	昭和 7	12	31	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』（紙を貼って日付を 12 月 31 日に改訂）
1933	昭和 8	8	1	秘 土地買収要図 大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』→『シンポ 2011』８頁に掲載
		12	31	**大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図**	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』（日付を８月１日から 12 月 31 日に改訂）
1934	昭和 9	12	31	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫要図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』
1935	昭和 10	12	31	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫要図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』（紙を貼って日付を 12 月 31 日に改訂）
1936	昭和 11	12	31	**大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図**	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』（日付を２月から 12 月 31 日に改訂）
1937	昭和 12	2		大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』→『セ 140 集』８頁（図７）に掲載
		12	31	**大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図 （朱書ハ軍需動員ニ伴フ臨時構築物ヲ示ス）**	『大阪陸軍兵器補給廠歴史』（日付を２月から 12 月 31 日に改訂）
1938	昭和 13	12		大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図	「禁野倉庫災害関係書類綴」
1939	昭和 14	10		**大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫配置図 禁野倉庫大阪工廠移管要図**	『昭和 14 年度大阪陸軍兵器補給支廠歴史』
				事故発生直前ニ於ケル弾薬調製作業班ノ配置及完成弾薬格納状況要図	
1940	昭和 15	頃？			「大阪陸軍兵器補給廠災害予防規定案」豊田家文書
1941	昭和 16				
1942	昭和 17	夏？		**大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠新築増築概要図**	『昭和 17 年度大阪陸軍兵器補給支廠歴史』 →『セ 140 集』９頁（図８）に掲載
1943	昭和 18	頃？			『分廠歴史』
1944	昭和 19				
1945	昭和 20	12	25	**大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠構内図**	豊田家文書→『資料集』→『セ 140 集』10 頁（図９）に掲載

ゴシック体は、図 189 ～ 197 の参考とした図面

豊田家文書:終戦時に禁野火薬庫勤務の技術(兵技)中尉であった豊田環氏が保管されていた禁野火薬庫関係の文書類。その一部が枚方市より『禁野火薬庫資料集』として公刊されている。

『分廠歴史』明治 29 年 10 月～昭和 18 年９月 30 日　豊田環氏編纂か→『禁野火薬庫資料集』所収

『資料集』:『禁野火薬庫資料集』枚方市　1989 年

『大阪陸軍兵器補給廠歴史』明治 29 年～昭和 18 年　1989 年関係者が防衛研究所に寄贈

『セ 140 集』: 駒井正明編『禁野本町遺跡』(財) 大阪府文化財センター調査報告書第 140 集　2006 年　(図を再トレース)

『シンポ 2011』: 財団法人大阪府文化財センター『いま、よみがえる 枚方の 20 世紀』 2011 年　(図を再トレース)

い。調査範囲内では在来建築物として**ワ号手入庫**がすでに存在し、他には**火工場**や**火薬取扱所**が土塁に囲まれた部分に工事未着手として記されている程度である。

なお、明治 42（1909）年 8 月 20 日に爆発した、2 号清涼火薬庫（第 2 号爆発ダイナマイト格納倉庫）や 1 号（後の 2 号）乾燥火薬庫（第 1 号誘発砿山火薬格納庫）は、各図の左上方（北西）欄外に位置する。

「大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図」［大正 2（1913）年］との対比（図 190）

徐々に施設の設置が進む。主要施設である**火工場**や**火薬庫**に加えて、調査地中央部の**職工厠**（8 区第 1 面 10 職工厠）や、南部の**レール（軽便軌道）**（11 区第 3 面 8 ～ 45 枕木土坑）とその横に建つ**仮建物**（11 区第 3 面仮建物）も設置されている。

平成 15・16 年度調査区で、ガス管・水道管の埋設による撹乱が著しく調査不要とされた部分は、禁野火薬庫の正門からまっすぐに北に向かう道路に該当する。その道路のすぐ東側に、東西に長い**建物**が 4 棟描かれているが、それらは平成 15・16 年度調査で掘立柱建物として検出された。

「大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図」［昭和 8（1933）年 12 月 31 日］との対比（図 191）

大正 2（1913）年の図と比較すると、調査地南部にあった 4 棟の東西に長い建物がなくなり、北西‐南東方向のレールに沿った仮建物がその北東側に**十五榴榴散弾完成場**（11 区第 3 面十五榴榴散弾完成場）として移転している。さらにその東側に**荷造場**（11 区第 3 面第 2 荷造場）と**弾薬筒完成場及熔填場**（10 区第 2 面弾薬筒完成場及熔填場）とそれに伴う**レール（軽便軌道）**が設けられている。

大正 13（1924）年の「大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図」から昭和 10（1935）年の「大阪兵器支廠禁野弾薬庫要図」までの各年の配置図には、**十五榴破甲弾完成場**と**十五榴薬筒完成場**という 2 棟の建物が描かれている。それらは東西方向に長い仮建物（あるいは仮建築物）で、西辺は正門から北上する道路に面している。発掘調査では、その位置・規模の建物は確認できなかった。

しかし、それらと重複する位置にあたる 11 区西部から平成 15・16 年度調査区にかけて、道路よりも東に 20 m弱離れた位置を西辺とする 2 棟の掘立柱建物を検出できた。各年の配置図と比較すると、それらは昭和 14（1939）年の爆発後いち早く設けられた**人夫（男女）休憩所**（11 区第 3 面男休憩所・女休憩所）であったと考えられる。

「大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図」［昭和 11（1936）年 12 月 31 日］との対比（図 192）

調査地北東部に**土塁**（9 区第 2 面 55 ～ 57 土塁基礎　12 区第 2 面 3・4 土塁ほか）とそれに囲まれた**第 4 師団兵器部保管建物**と 3 棟の**火工場**などが設けられている。これらの施設は、昭和 9（1934）年の図にはなく、昭和 10（1935）年の図には南半の**7 号火工場**（9 ‐ 2 区第 2 面 1 建物基礎）と**8 号火工場**（12 区第 2 面 1 建物）とその周囲の**土塁**（8 区第 1 面 19 土塁　9 区第 2 面 55 ～ 57 土塁基礎　12 区第 2 面 3 土塁ほか）が描かれている。一方、北半の**第 4 師団兵器部保管建物**（8 区第 1 面 20 建物）と**9 号火工場**（12 区第 2 面 2 建物）の北と東西を囲む**土塁**（12 区第 2 面 4 土塁）は、昭和 11（1936）年の図に初出だが、以後昭和 13（1938）年の図までは、他の土塁よりも幅が狭く、かつ、両建物の中間にも土塁がないように表現されている。この北半の土塁では、発掘調査によりコンクリート基礎が土塁構築後にその盛土を切りこんで設置されたことが判明したので、この昭和 11 年頃には土盛

表 12

土地買収の時期	調査区	調査時の遺構名（「　」は施設名称）		斜体字は図面に					
				明治 42（1909）年	大正２（1913）年	昭和８（1933）年	昭和 11（1936）年	昭和 12（1937）年
			施設全体の名称	明治 36（1909）年４月から大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫			昭和 11 年頃から大阪	
			図　面	大阪兵器支廠禁野弾薬庫一般配置図	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫図	大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図	大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図
			レール（軌道）の表現	あり	あり	あり	あり	あり
明治29年	平成 15・16 年度調査区	「土塁」	爆発 明治42年8月20日爆発	*土塁*	*土塁*	*土塁*	*土塁*	*土塁*
	８区（Ｄ棟）	第１面 18 土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	*土塁*	*土塁*
	平成 15・16 年度調査区	「軽便軌道」						
	７区（Ｅ棟）	第２面３～ 16 枕木土坑		*東西方向レール*	*東西方向レール*	*東西方向レール*	*東西方向レール*	*東西方向レール*
	７区（Ｅ棟）	第２面 17 ～ 20 枕木土坑		*南北方向レール*	*南北方向レール*	*南北方向レール*	*南北方向レール*	*南北方向レール*
	７区（Ｅ棟）	第２面 21 石組溝		*北東 - 南西方向レール*	*北東 - 南西方向レール*	*北東 - 南西方向レール*	*北東 - 南西方向レール*	*北東 - 南西方向レール*
	８区（Ｄ棟）	第１面８石組溝						
	平成 15・16 年度調査区	「手入場及塗蝋場」		ワ号手入庫	手入場及塗蝋場	２号兵器庫		
	平成 15・16 年度調査区	「１号火工場」		に号(工事未着手)	火工場	１号火工場	１号火工場	１号火工場
	平成 15・16 年度調査区	「２号火工場」		ろ号(工事未着手)	火工場	２号火工場	２号火工場	２号火工場
	平成 15・16 年度調査区	「３号火工場」		は号(工事未着手)	火工場	４号火工場	３号火工場	３号火工場
	平成 15・16 年度調査区	「４号火工場」		い号(工事未着手)	火工場	５号火工場	４号火工場	４号火工場
	５区（調整池）	第１面「建物基礎」		ヒ号(工事未着手)	火工場	７号火工場	６号火工場	第４師団兵器部保管建物
	８区（Ｄ棟）	第１面７建物		セ号(工事未着手)	火工場	６号火工場	５号火工場	５号火工場
	平成 15・16 年度調査区	「火薬試験場」		ヌ号(工事未着手)	火薬試験場	火薬取扱所	火薬取扱所	火薬試験所
	平成 15・16 年度調査区	「１号未填薬弾丸庫」			弾丸庫	４号未填薬弾丸庫	１号未填薬弾丸庫	１号未填薬弾丸庫
	平成 15・16 年度調査区	「１号乾燥火薬庫」			乾燥火薬庫	１号乾燥火薬庫	１号乾燥火薬庫	１号乾燥火薬庫
	８区（Ｄ棟）	第１面 10 職工厠			職工厠			
	平成 15・16 年度調査区	掘立柱建物			*建物４棟*			
	平成 15・16 年度調査区	「第１号雑器庫」					雑物庫	第１号雑器庫
	平成 15・16 年度調査区	「材料庫」					荷造材料庫	材料庫
	平成 15・16 年度調査区	掘立柱建物						人夫休憩所
	平成 15・16 年度調査区	「貯水池」						
	平成 15・16 年度調査区	「貯水池」						
	８区（Ｄ棟）	第１面９貯水池						
明治40年	11 区（Ｂ棟）	第３面８～ 45 枕木土坑			*北西 - 南東方向レール*	*北西 - 南東方向レール*		
	11 区（Ｂ棟）	第３面「仮建物」			仮建物	十五榴榴散弾完成場		
	11 区（Ｂ棟）	第３面「男休憩所」				十五榴破甲弾完成場？		
	11 区（Ｂ棟）	第３面「女休憩所」				十五榴薬筒完成場？		
	11 区（Ｂ棟）	第３面「第２荷造場」				荷造場	荷造場	第２荷造場
	10 区（Ａ棟）	第２面「弾薬筒完成場及熔填場」				弾薬筒完成場及熔填場	弾薬筒完成場並熔填場	弾薬筒完成場並熔填場
	10 区（Ａ棟）	第２面「汽罐室」					キカン室	
	10 区（Ａ棟）	第２面「熔填場」					熔填場	熔填場
	10 区（Ａ棟）	第２面「箱詰作業場」（西）						箱詰作業場
	10 区（Ａ棟）	第２面「熔填作業場」（西）						熔填作業場
	11 区（Ｂ棟）	第２面３～６便槽						
明治43年	９区（Ｃ棟）	第１・２面１～４枕木土坑	爆発時用地外				*南北方向レール*	*南北方向レール*
	８区（Ｄ棟）	第１面 21 軽便軌道					*南北方向レール*	*南北方向レール*
	９区（Ｃ棟）	第１・２面５～ 40 枕木土坑					*東西方向レール*	*東西方向レール*
	９ - ２区（防火水槽Ｃ）	第２面２・３枕木					*東西方向レール*	*東西方向レール*
	９ - ２区（防火水槽Ｃ）	第１・２面１建物基礎					７号火工場	７号火工場
	12 区（立体駐車場）	第１・２面１建物					８号火工場	８号火工場
	12 区（立体駐車場）	第１・２面２建物					９号火工場	９号火工場
	９区（Ｃ棟）	第１・２面 55 ～ 57 土塁基礎					*土塁*	*土塁*
	12 区（立体駐車場）	第１・２面３土塁					*土塁*	*土塁*
	10 区（Ａ棟）	第２面「第３号雑器庫」					雑器庫	第３号雑器庫
	８区（Ｄ棟）	第１面 20 建物					第４師団兵器部保管建物	第４師団兵器部保管建物
	９区（Ｃ棟）	第１・２面コンクリート土間					道路及側溝	道路及側溝
	５区（調整池）	第１面「土塁基礎」					*土塁*	*土塁*
	８区（Ｄ棟）	第１面 19 土塁					*土塁*	*土塁*
	12 区（立体駐車場）	第１・２面４土塁					*土塁*	*土塁*
	13 区（管路・人孔）	第１面「土塁」					*土塁*	*土塁*
	14 区（管路・人孔）	第１面「土塁」					*土塁*	*土塁*
	15 区（管路・人孔）	第１面「土塁」					*土塁*	*土塁*
	10 区（Ａ棟）	第２面「熔填作業場」（東）						熔填作業場
	10 区（Ａ棟）	第２面「箱詰作業場」（東）						箱詰作業場
	12 区（立体駐車場）	第２面５軌道						*東西方向レール*
	12 区（立体駐車場）	第１・２面６軌道						*東西方向レール*
	14 区（管路・人孔）	第１面「軽便軌条」						*東西方向レール*
	１区（道路・ガス管）							第 12 号火工場
	１区（道路・ガス管）							第 11 号火工場
	１区（道路・ガス管）							第 10 号火工場
	10 区（Ａ棟）	第１面１建物						
	10 区（Ａ棟）	第１面２建物						
	10 区（Ａ棟）	第１面３建物						
	10 区（Ａ棟）	第１面コンクリート枕木						

禁野火薬庫の主要施設

表現はあるが個々の施設名のないもの					遺構・施設名	年代・備考
昭和14（1939）年			昭和17（1942）年	昭和20（1945）年		
陸軍兵器支廠禁野倉庫			昭和15年5月から大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠			
事故発生直前ニ於ケル弾薬調製作業班ノ配置及完成弾薬格納状況要図	爆発	大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫配置図 禁野倉庫大阪工廠移管要図	大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠新築増築概要図	大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠構内図		
なし		なし	あり	なし		
土塁	昭和14年3月1日爆発	*土塁*	*土塁*	*土塁*	土塁	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	18 土塁	明治42年頃
					軽便軌道	
					3～16 枕木土坑	明治42年以前～昭和14年
					17～20 枕木土坑	
					21 石組溝	明治42年頃～昭和14年　レールは未検出
					8石組溝	明治43年頃～昭和14年
					手入場及塗蝋場	
1号火工場			第29号倉庫	第17号倉庫	1号火工場	明治42～44年建築物　昭和14年の爆発後に増改築
2号火工場					2号火工場	
4号火工場			第30号倉庫	第18号倉庫	3号火工場	
5号火工場					4号火工場	
					建物基礎	明治42～44年建築物　断面でのみ確認
6号火工場			第30号倉庫	第18号倉庫	7建物	明治42～44年建築物　昭和14年の爆発後に増改築
					火薬試験場	明治45年以前竣工～昭和14年以前
1号未填薬弾丸庫					1号未填薬弾丸庫	明治45年以前竣工～昭和14年
1号乾燥火薬庫			軽油庫	軽油庫	1号乾燥火薬庫	明治45年以前竣工　軽油庫は昭和16年授受
					10 職工厠	大正時代頃
					掘立柱建物	
第1号雑器庫					第1号雑器庫	昭和9年授受か
材料庫					材料庫	昭和11年竣工
					掘立柱建物	昭和12～13年竣工　軍需動員に伴う臨時構築物
			貯水池	貯水池	貯水池	昭和16年授受
			貯水池	貯水池	貯水池	
			貯水池		9貯水池	
					8～45 枕木土坑	大正2年頃～昭和8年
					仮建物	
		人夫休憩所	男休憩所		男休憩所	完成場は大正13年以前～昭和10年 人夫休憩所は昭和14年4月授受
		人夫休憩所	女休憩所		女休憩所	
建物					第2荷造場	昭和8年頃設置～昭和14年
建物					弾薬筒完成場・熔填場	昭和9年授受
					汽罐室	昭和9年～昭和11年？
					熔填場	昭和9年～昭和14年以前
建物					箱詰作業場（西）	昭和12年竣工　軍需動員に伴う臨時構築物
建物					熔填作業場（西）	
		建物	厠	厠	3～6便槽	男休憩所に付属　昭和14年授受
			軽便軌条		1～4枕木土坑	昭和7年以降
			軽便軌条		21 軽便軌道	昭和9年以降か（昭和7年の図にもあるが）
			軽便軌条		5～40 枕木土坑	昭和10年には存在
					2・3枕木	複線部分　昭和10年には存在～昭和14年
7号火工場			第27号倉庫	第15号倉庫	1建物基礎	昭和10年授受
8号火工場			第25号倉庫	第13号倉庫	1建物	昭和10年授受　昭和14年の爆発後東西に拡張
9号火工場			第26号倉庫	第14号倉庫	2建物	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	55～57 土塁基礎	昭和10年以降
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	3土塁	
建物					第3号雑器庫	昭和11年には存在～昭和14年
建物			第28号倉庫	第16号倉庫	20 建物	昭和11年授受
道路		道路	舗装道路	舗装道路	コンクリート土間	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	土塁基礎	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	19 土塁	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	4土塁	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	土塁	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	土塁	
土塁		*土塁*	*土塁*	*土塁*	土塁	
建物					熔填作業場（東）	昭和12年竣工　軍需動員に伴う臨時構築物
建物					箱詰作業場（東）	
			軽便軌条		5軌道	昭和12年敷設
					6軌道	複線部分　昭和12年敷設～昭和14年
			軽便軌条		軽便軌条	昭和12年以降
火工場		*建物？*	第4号雨覆庫	*建物*		火工場は昭和12年竣工　軍需動員に伴う臨時構築物
火工場			第24号倉庫	*建物*		
火工場		*建物？*	第3号雨覆庫	*建物*		
			第16号倉庫		1建物	昭和16年竣工　各倉庫西部の土地は明治40年買収
			第17号倉庫	第7号倉庫	2建物	
			第18号倉庫		3建物	
			軽便軌条		コンクリート枕木	倉庫内にも軌条を敷設

を主とした簡易な構造であったと推定できる。

これらの土塁の南側にある道路部分は、この年に**舗装道路**（９区第２面コンクリート土間）として授受され、昭和 14 年の爆発後も機能していた。

調査地南西部では、かつて２号兵器庫があった位置に、昭和 11 年に平面規模の大きな**荷造材料庫**が設けられ、それに伴い**軽便軌道**も変更されている。

弾薬筒完成場竝熔填場（10 区第２面弾薬筒完成場及熔填場）の東辺に付属する**熔填場**と**キカン室**は図面に描かれているが、残念ながら発掘調査では判然としなかった。

「大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図（朱書ハ軍需動員ニ伴フ臨時構築物ヲ示ス）」［昭和 12（1937）年 12 月 31 日］との対比（図 193）

表題の図に、さらに**建物**や**レール（軽便軌道）**が朱色で追記されている。

戦時体制の強化とともに禁野火薬庫（当時は禁野倉庫）の施設も拡充されてきたが、この年の臨時動員に伴ってさらに調査地東部に**火工場**や**熔填作業場**が設けられた。

調査地南東部に位置する**箱詰作業場**２棟（10 区第２面箱詰作業場（東）・（西））、**熔填作業場（西）**（10 区第２面熔填作業場（西））、**弾薬筒完成場竝熔填場**（10 区第２面弾薬筒完成場及熔填場）の間には木製枕木を用いた仮設的な**軽便軌道**（10 区第２面軽便軌道）が敷設されていた模様である。これら４棟は、その北側にある**舗装道路**（９区第２面コンクリート土間）に規制され、北辺がほぼ並んでいた可能性が高い。**熔填作業場（東）**（10 区第２面熔填作業場（東））は、『昭和 12 年度大阪陸軍兵器支廠歴史』に面積は 378 ㎡と記されており、東西が約９ｍ（５間）なので、南北約 42 ｍ（23 間）と考えられる。

正門から北上する道路の東に面した南北に長い掘立柱建物は、この図に追記された構築物のうち、**人夫休憩所**に該当すると考えられる。昭和 12 年・13 年の図によると、この建物の南の調査範囲外に同様な建物がもう１棟存在した模様である。

なお、この図では、**火薬試験所**の西隣にそれよりも一回り大きな**火薬取扱所**があり、その北側で**レール**が屈曲したように（追記ではなく）印刷されている。翌昭和 13（1938）年の「大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫要図」にも**火薬試験所**と**火薬取扱所**が描かれているが、その図では火薬試験所のほうが大きく、**レール**も昭和 11 年以前と同様に北東‐南西方向に直線的に描かれている。

「事故発生直以前ニ於ケル弾薬調製作業班ノ配置及完成弾薬格納状況要図」［昭和 14（1939）年］との対比（図 194）

３月１日の爆発時点は、禁野火薬庫（当時は禁野倉庫）の最盛期であったともいえる。爆発の発火点は、今回の調査範囲の北東端から東へ約 250 ｍも離れた 15 号未填薬弾丸庫であったが、従来の**火工場**などの施設に加えて昭和 12 年頃からの**臨時構築物**も多数立ち並んでいた今回の調査範囲も爆発により灰燼に帰した。

この図面には表題のとおり、爆発直前にどの施設に何がいくつあったかが詳細に記録されている。「作業実施中ノ場所」も明示され、今回の調査範囲ではその南東部の**熔填作業場（東）（西）**（10 区第２面熔填作業場（東）・（西））、**弾薬筒完成場竝熔填場**（10 区第２面弾薬筒完成場及熔填場）、**第２荷造場**（11 区第３面第２荷造場）に作業中の丸印が付けられている。実際にそれらの建物では、発掘調査によ

って「爆発ニ依リ生シタル漏斗孔」を検出した。

ただし、この図にはその趣旨からか、軽便軌道が記入されていない。また、細部の状況からみて、爆発当日よりも新しい時期の状況を下敷きにして描いた可能性もある。図 194 には、それらを勘案して**軽便軌道**と**土塁**の状況などを推定復元した。

「大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫配置図　禁野倉庫大阪工廠移管要図」［昭和 14（1939）年 10 月］との対比（図 195）

元々の表題を二重線で消し、その下方にやや小振りな字で「禁野倉庫大阪工廠移管要図」と書かれている。

爆発の約半年後の状況である。建物の表現がほとんどなく、わずかに２棟の**人夫休憩所**（11 区第３面男休憩所・女休憩所）とその東側の**厠**（11 区第２面３～６便槽）と考えられる建物などが描かれている。**軽便軌道**の表現は一切なく、その復旧状況は不明である。

他方、**土塁**はほとんど表現されている。仔細にみると、かつての４号火工場西側の**土塁**はその西半部が欠損したように描かれている。また、爆発前の図では、**９号火工場**（12 区第１面２建物）と**第４師団兵器部保管建物**（８区第１面 20 建物）を囲む**土塁**（12 区第２面４土塁）は他の土塁よりも簡略に表現されており、発掘調査ではこの土塁の北辺にはコンクリート製の基礎が築かれていなかったことが判明した。これらの土塁は構造的に弱いことから、爆発により崩壊したのであろうか。

ただし、発掘調査の成果と諸記録によると、この**土塁**（12 区第２面４土塁）は、おそらく爆発後から昭和 17 年までの間に、コンクリート基礎は設置されなかったもののさらに北に拡張されて、結果的にその北西部で在来の土塁に接するようになった。さらに、土塁で囲まれた内部でも、**９号火工場**とその西隣の建物との間にも軽便軌道部分を除いた部分に、コンクリート基礎をもつ**土塁**（12 区第２面４土塁）が新たに築かれた模様である。

「大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠新築増築概要図」［昭和 17（1942）年夏頃］との対比（図 196）

新築建物として、７棟の倉庫が図示されている。それらのうち、**第 26 号倉庫**（12 区第１面２建物）と**第 28 号倉庫**（８区第１面 20 建物）では、昭和 14 年の爆発前の建物の基礎を東西に各１ｍほど拡張して倉庫を新築していることが今回の調査で確かめられた。**第 25 号倉庫**（12 区第１面１建物）・**第 27 号倉庫**（９‐２区第１面１建物基礎）も同様に基礎が再利用された可能性が高い。**第 29 号倉庫**・**第 30 号倉庫**は、平成 15・16 年度調査と**８区第１面７建物の調査**の結果、各々爆発前の３棟の火工場とその間の土塁を撤去して、３棟の火工場を連ねたような東西に長い倉庫として新築されたことが判明した。**第 24 号倉庫**は１区において、基礎と推定されるコンクリート構造物がごくわずかに検出できたにとどまるため、新築状況は不詳である。

また、爆発後に設けられた２棟の人夫休憩所は、北が**男休憩所**（11 区第３面男休憩所）、南が**女休憩所**（11 区第３面女休憩所）と男女別になっている。

昭和 14 年の爆発前まで乾燥火薬庫があった位置には**軽油庫**が描かれている。軽油庫はこの図と昭和 20 年図にともにやや南北に長く、昭和 20 年の図に 20 坪と注記されていることから、南北５間（約９ｍ）・東西４間（約 7.2 ｍ）と推定して図示した。

軽便軌道が、昭和 14 年の爆発以前と比べてかなり少なくなっているのが目に付く。

「大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠構内図」［昭和 20（1945）年 12 月 25 日］との対比（図 197）

8 月 15 日の終戦により、禁野火薬庫（当時は枚方分廠）の機能も停止した。

終戦から 4 か月後のこの図によると、調査地の南東部では、昭和 16 年に建てられた倉庫のうち第 16 号倉庫と第 18 号倉庫が撤去され、第 17 号倉庫から改称された**第 7 号倉庫**（10 区第 1 面 2 建物）のみになっている。第 7 号倉庫の規模は 280 坪（924 ㎡）と記されており、南北 6 間強（約 11 m）なので、東西約 46.5 間（84 ～ 85 m）と推定できる。その他の倉庫も、番号が改められている。男女の休憩所もなくなり、それらに付属していた**厠**（11 区第 2 面 3 ～ 6 便槽）だけが残っている。**軽便軌道**はこの図には表示がなく、その状況は不明である。

いわゆる禁野火薬庫は、明治 30（1897）年 4 月に**砲兵第二方面本署禁野出張所**として開設され、同年 9 月に**大阪陸軍兵器本廠禁野弾薬庫**、次いで明治 36（1903）年に**大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫**と改称され、明治時代後葉から昭和時代初期にわたって文字どおり弾薬庫として徐々に整備されてきた。建物基礎や側溝などの使用材料は、明治時代には煉瓦や石材が、昭和時代にはコンクリートが多用される傾向がある。

1936（昭和 11）年頃に**大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫**と改称された頃からは、戦闘的な「弾薬庫」から一見非戦闘的な「倉庫」への名称変更とは裏腹に、日中戦争から太平洋戦争に至る軍備拡張につれて火薬庫としての機能が急激に拡充された。しかし、昭和 14（1939）年 3 月 1 日の爆発で機能が崩壊した。復旧にあたって、その大部分が枚方製造所に移管され、昭和 15（1940）年以降は大**阪陸軍兵器補給廠枚方分廠**として主に倉庫を擁する補給組織として機能していた。それらの変遷が施設の消長にも明確に反映されている。

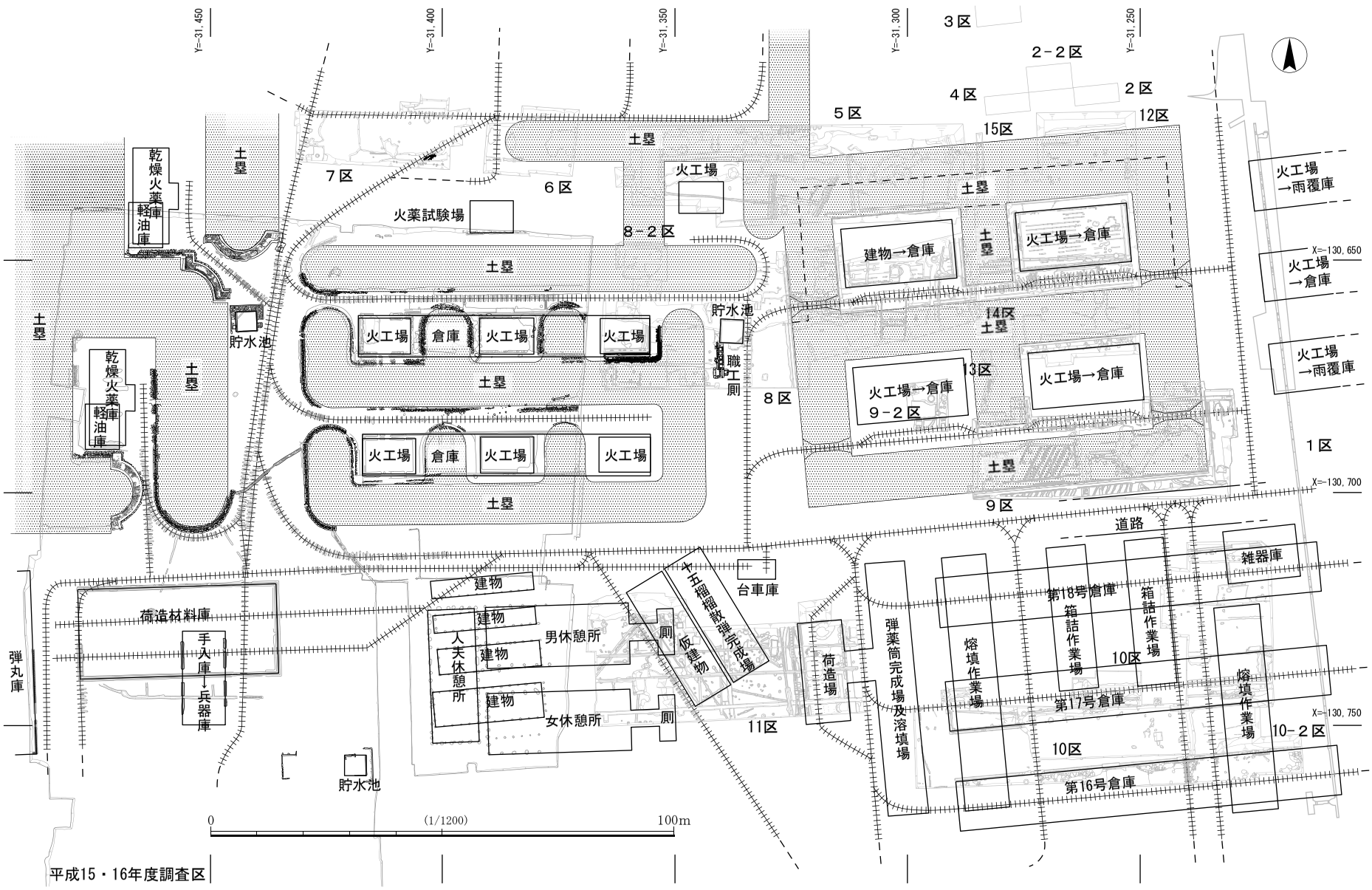

図188　禁野火薬庫の主要施設

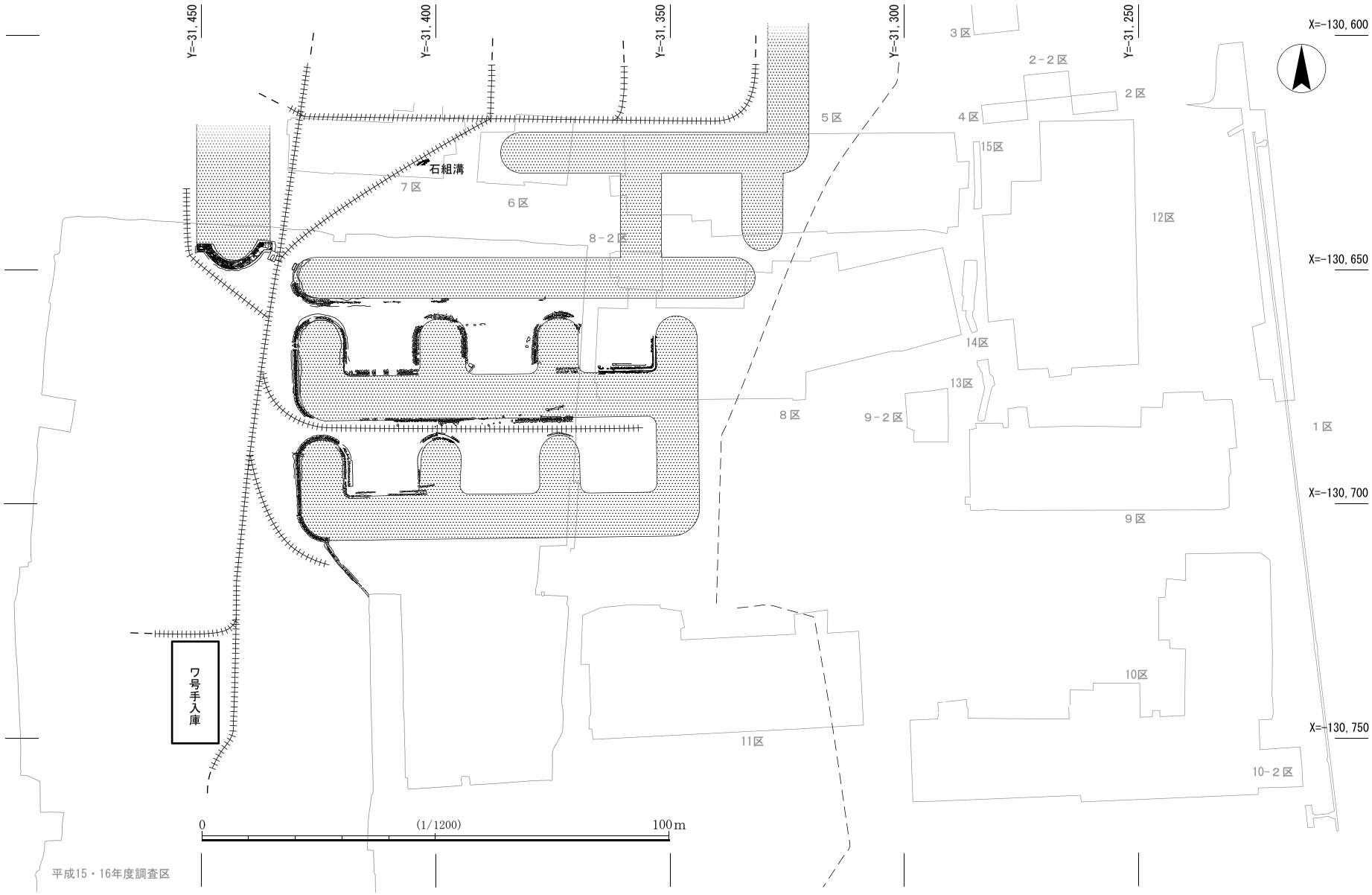

図189　明治42（1909）年の大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫

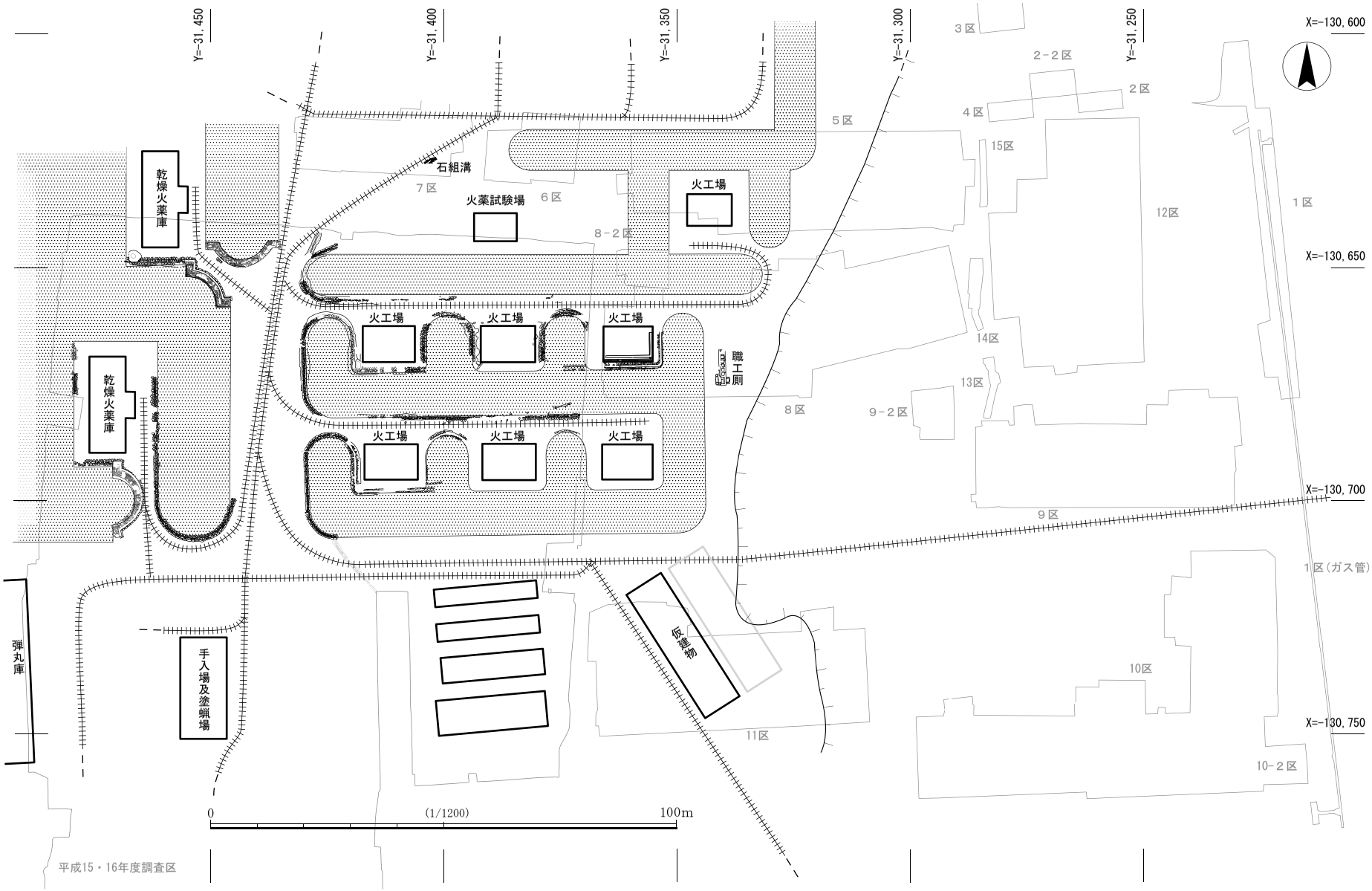

図190　大正２（1913）年の大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫

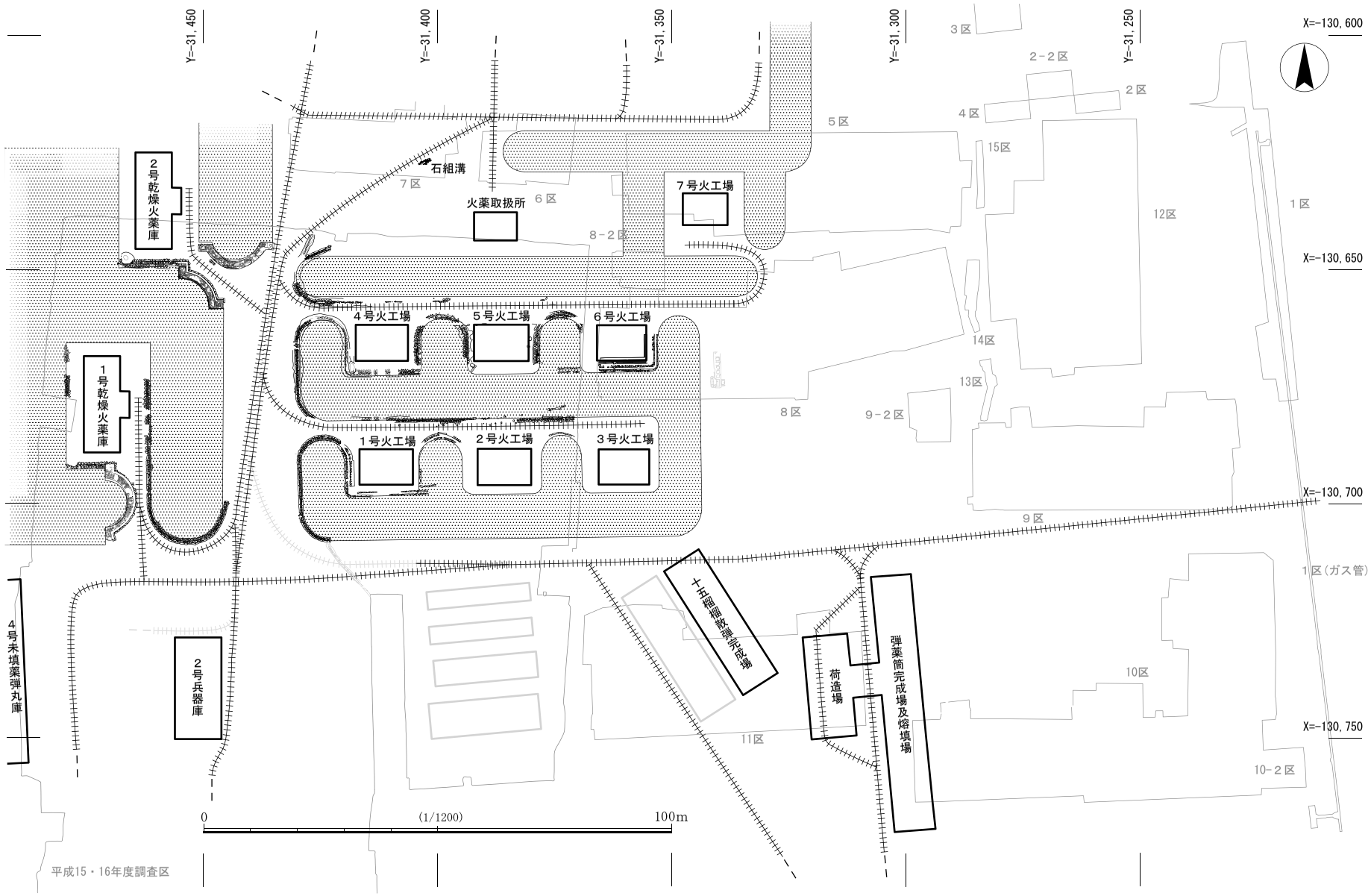

図191　昭和８（1933）年の大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫

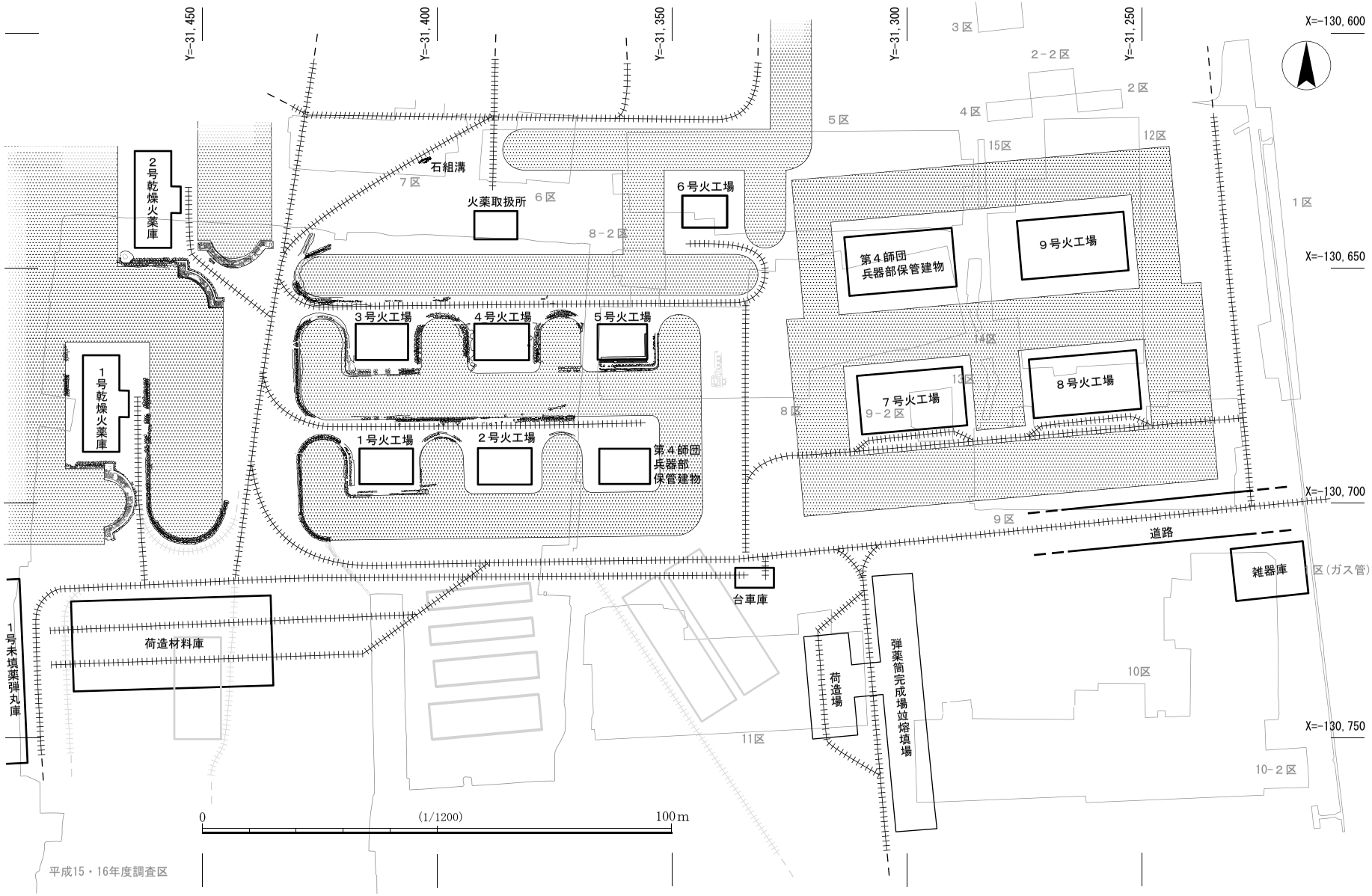

図192　昭和11（1936）年の大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫

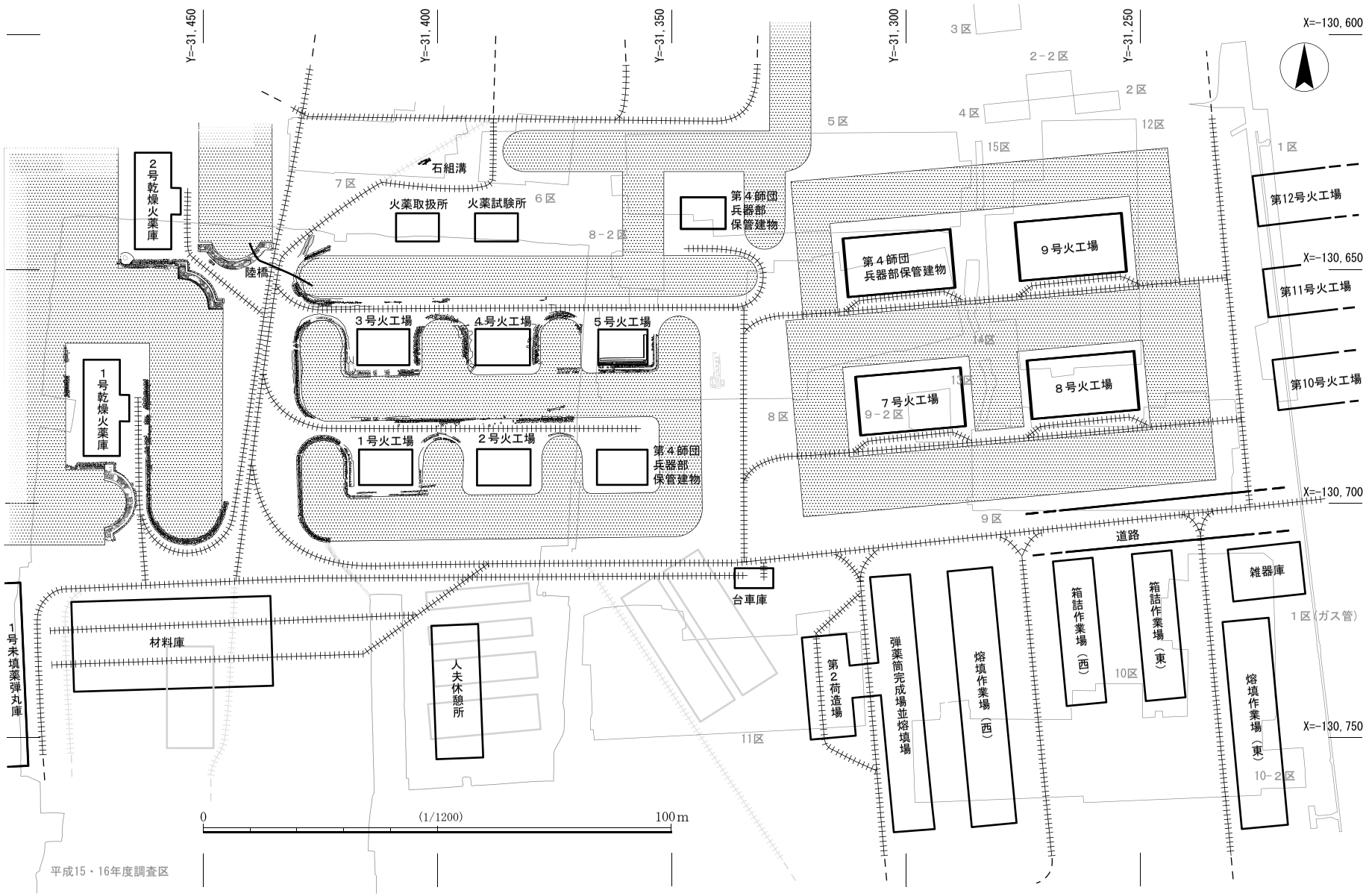

図193　昭和12（1937）年の大阪陸軍兵器支廠禁野弾薬庫

図194　昭和14（1939）年爆発前の大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫

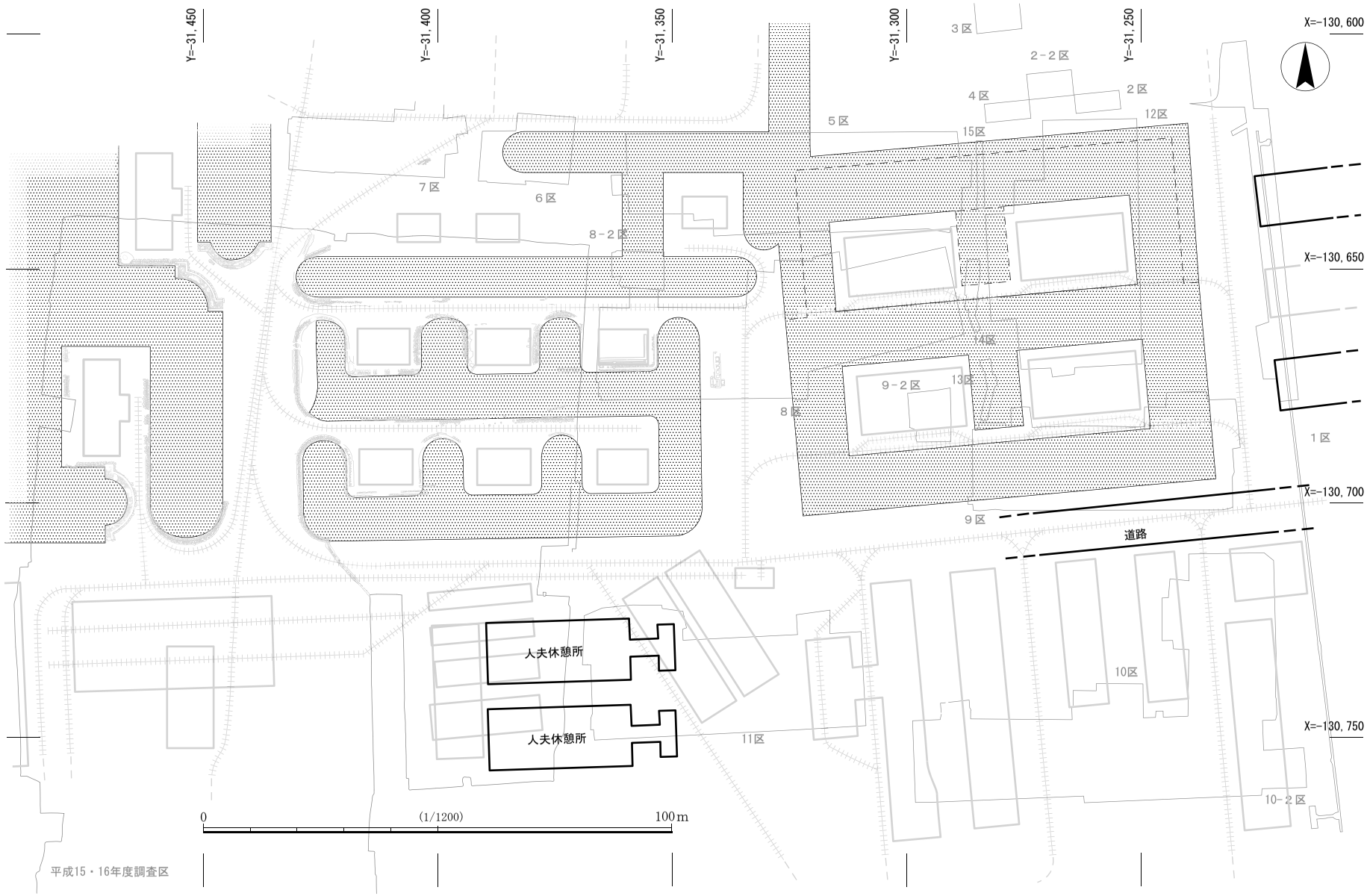

図195　昭和14（1939）年爆発後の大阪陸軍兵器支廠禁野倉庫

図196　昭和17（1942）年の大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠

図197　昭和20（1945）年の大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠